



一般社団法人 愛媛県中小企業診断士協会 〒790-0003 松山市三番町 4-8-7 第5越智会計ビル1F
発行人：会長 山本 久美 TEL：089-961-1640 URL：http://shindan-ehime.com
編集：広報委員会 E-mail：shinai@shindan-ehime.com

目次

◆会長挨拶 (山本久美) 1
◆診断士の日イベント：漁村での担い手及び後継者の確保について (多田稔) 3
◆研修委員会より：会員研究会の開催報告及び今後のスキルアップ研修について
(研修委員会：溝淵博志、山川哲央) 4
◆愛媛大学アントレプレナー講座 (濱田悠介) 5
◆松山しごと創造センター：
松山市新ビジネスチャレンジ促進補助金の集中対応 (中木戸康博) 6
◆八幡浜商工会議所主催『経営デザインシート作成セミナー』(高野祐介) 6
◆入会ご挨拶 (岡崎晋也) 7
◆お知らせ (事務局) 8



会長挨拶

会長 山本 久美

■若手・企業内診断士の参画促進

令和5年度は香川県協会と共同で愛媛県下での中小企業診断士第1次試験を開催します。準備にあたってはできるだけ40代から50代の若手を中心に、企業内診断士・独立系診断士の境なく参加してもらうようにしています。今後、診断士試験の運営に留まらず理事会の運営についても、若手・企業内診断士が参画できる体制を整えて参ります。

若手・企業内診断士の声が協会運営に届くようにして、時代の変化に対応でき

る柔軟な発想を取り入れていければと考えています。60代以上の方も培った経験を活かして若手の支援・スキル向上にお力を発揮していただければ助かります。



具体的な目標としては理事会における企業内診断士と独立系診断士の比率を4対6程に持っていければと考えており、達成のためには会員全体の balan

スも4対6を目指していく必要があります。

働き方改革によって企業内診断士でも副業やプロボノといった形で、経営支援や窓口相談、セミナーなどの事業に関わる機運が増しています。そうした方が事業に参画しやすい受入体制を整えるためにも、理事会の場で直接、若手・企業内診断士の声を反映していくことは大切であり、今年の大きなテーマと考えています。

■新たな仕組みの検討

先頃、kintoneの運用事例として東京都診断士協会がどのように活用しているのか説明を聴講する機会がありました。東京協会ではkintoneで部会の情報発信、連絡などに利用しており、研究成果を共有できるようにして部会活動の活性化に役立てているようです。

愛媛県協会ではスキルアップ研修の場で情報発信・共有の機会を設けてはいますが、情報を受け取るだけでなく自ら積極的に発信してもらうためにも、テーマ別の部会・研究会といった会員の強みを生かし相互にスキルアップを図る活動を強化していきたいと考えており、kintoneのようなツールの活用も一考の余地があると感じました。

スキルアップ研修も引き続き実施していきますが、今後は溝淵研修委員長と企業内診断士の山川理事の2名で主体的に運営してもらうことを考えています。3月のスキルアップ研修で私の方から今後の方向性については説明するつもりですが、その後の具体的な研修の内容については、お二人に中心になって考えてもらい、この面でも体制の刷新を図っていけたらと思います。

■今後の事業の展望

現在、契約や提携を結んでいる各商工会議所、商工会連合会、松山市、愛媛県、愛媛大学、漁協・信漁連、農業経営サポ

ートセンターといった公的機関、金融機関等とは必ず連携を継続していけるよう体制を整えて参ります。

新たな取組みとしては、国が進めている伴走型支援の取組みについて関わっていくことが1つであり、もう1つは中小企業活性化協議会の事業についてガイドラインを詰めて企業内診断士でも独立系診断士をサポートする形で参画して経験を積める枠組みを設けることです。

今年の12月にかけて、経営改善計画策定支援事業(405事業)や中小企業再生支援協議会でのリスクを必要とする企業の事業計画を作成する案件で企業内診断士が関わることで、他の事業では得難い大きな経験を得られる機会になると考えています。

■アフターコロナに向けて

新型コロナウイルスの影響でここ数年は会員診断士同士が直接顔を合わせた交流機会が失われておりましたが、風向きも変わってきつつありますので、今年はぜひとも交流する機会を作りたいと考えております。

具体的には診断士試験との兼ね合いで10月に開催を予定している理論政策更新研修の後の交流会、年末の会員研究会後の忘年会などこれまで定期的に行っていた懇親会の再開を検討しております。それから、研修旅行も長らく実施できていませんので、総会などの機会に皆さんのご意見を伺いながら検討を進めていきたいと考えています。

新型コロナウイルスが流行し始めてから入会した方は、対面できても名刺交換に留まってしまっている方もいます。交流機会を活かして互いの人となりや考え方に触れることで会員診断士同士、相互に協力しやすい関係性を築いていただければと思います。

冒頭にお伝えした通り、若手・企業内診断士にも協会運営に積極的に参加し

てもらうこと、そのための体制を築き、次の方にバトンタッチすることが任期残り1年の使命と考えています。

ここ数年で企業内診断士にとっても事業への参画が増えておりポイント取得ができる機会の提供には繋がってきていることと思います。これをさらに推進していくとともに、若手・企業内診断士という同じ境遇で事業に参画されている方の事例を増やして情報発信し、交

流機会を設けることで新たに参加される方が気軽に相談できる場を整えて参ります。

このように協会として構想しているアイデアはありますが、県協会の若返り、体制刷新のために必要と感ずることがありましたら、会員の皆様からも声を挙げていただければと思います。ぜひとも積極的にご参画ください。



診断士の日イベント：漁村での担い手及び後継者の確保について

多田 稔

令和4年度の診断士の日イベントは11月2日に愛媛県漁業協同組合、愛媛県信用漁業協同組合連合会との共催で、「漁村での担い手及び後継者の確保について」をテーマに基調講演及びパネルディスカッションを開催しました。

山本会長による基調講演では、ITを活用することで業務の効率化を図るだけでなく、若者の興味関心を引く事業の在り方に変えていくことの大切さなど、事例を交えて紹介いただきました。



パネルディスカッションでは、漁業協同組合・信用漁業協同組合連合会で担い手確保に携わる関係者だけでなく、えひめ農業経営サポートセンターの関係者にもご参加いただき、1次産業での担い

手確保について現場の実情や課題を農業、漁業それぞれの立場から意見交換を行いました。

私はファシリテーターという立場で、討論の司会及びとりまとめを担当しました。多岐にわたる議論の中で、担い手確保のポイントとして各パネリストが挙げられたのは、「安定収入」と「情報発信」でした。愛媛県漁業協同組合宇和島支所で担い手対策を担当しておられる広沢初志副運営委員長からは、「家族を養っていける安定した収入が必要」、「若い世代に向けて、漁業の魅力を発信することが重要」という現場の声を紹介いただきました。

これらの課題に対して、愛媛県協会として協力できることはたくさんあるのではないかと感じています。「安定収入」に対しては高付加価値化や販路開拓、「情報発信」に対してはプロモーションの企画や情報媒体ごとの広報戦略立案などです。

また、若者にとって魅力的な漁業とするためには、休日を含む労働条件の整備、新規就業者がお互いにコミュニケーシ



ョンが取れる場作り、婚活の促進という視点も提示されました。これらについても、中小企業診断士が持つ土業や事業者のネットワークを活用して貢献ができるのではないかと考えています。

豊かな水産資源を有する愛媛県にとって、漁業振興は重要な地域課題です。我々は愛媛県で活動する経営支援のプロとして、今後も漁業・水産業への関与を深めていくべきと強く感じました。



研修委員会より： 会員研究会の開催報告及び今後のスキルアップ研修について

研修委員会：溝淵 博志、山川 哲央

■会員研究会開催の報告

令和4年12月13日に会員研究会を開催しました。今回の研究会では、一ノ宮副会長と私の方で昨年から導入が進む「伴走支援」について愛媛県よろず支援拠点での事例を取り上げました。

私の経験でも頭で理解できていても、実践に一步踏み出すのは難しいことがあります。今回ご紹介した「対話」と「傾聴」を基本とした伴走支援の実践事例が、独立系診断士のみならず企業内診断士の皆様の業務に少しでもお役に立てればと思います。

■研修委員会より

研修委員会では、診断士スキル向上のための情報共有、連携する機関の活動紹介、協会事業に関する知識・知見の提供等を目的に毎月スキルアップ研修を開催しています。

来年度はさらに実践的な知識や情報の提供を目指す一方で、アンケートを実施し皆様の声を参考に進めていきたいと考えています。ぜひご参加ください。

また、今回の会員研究会は現地開催のみとなりましたが、毎月のスキルアップ研修はオンラインでの参加も受け付けています。スキルアップ研修の場で協会活動・参画事業の情報提供も行っていま

すので、遠隔地の方、企業内診断士の方も積極的にご参加ください。

普段、リモート参加を活用されている山川さんからのコメントもいただいていますので、紹介させていただきます。



■リモート参加活用（山川哲央）

私は勤務先業務で愛媛県への出張機会もあり、リアル・リモートを併用し、積極的に研修に参加しています。このスキルアップ研修は毎月第2火曜日が基本で、企業内診断士としてもスケジュール調整がしやすく、リモート対応していることから参加が容易です。こうした環境により、場所、時間、立場を問わず協会活動に参加することができています。

また、研修会では県協会の基本方針や動向、受託事業の状況などが共有、また、愛媛県など中小企業支援に関する自治体情報などの貴重な情報収集機会にもなっています。

現在、研修講師の現地参加が中心ですが、今後は他地域の講師起用など講師のリモート参加も実施するなどして、講師、参加者の多様化、充実化が進めばと考えます。



愛媛大学アントレプレナー講座

濱田 悠介

令和4年10月15日(土)、16日(日)に愛媛大学社会連携推進機構主催で開催されたアントレプレナー入門講座に講師として3名の会員診断士が参加しました。下記テーマにそって担当講師が講演を行いました。

テーマ	担当講師
マーケット調査・検証方法 (顧客ニーズ調査)	濱田悠介
ビジネスプラン (事業計画書) 作成方法の解説	多田稔
マネジメント (経営管理) の視点	矢野幸治



2日目には1コマ分時間を取っていただき、参加学生さんがビジネスプランコンテストへの応募を想定した事業計画書に対して、内容を確認しながら気づいた点へアドバイスするという方式でセッションを行いました。

自らの経験を通じて感じたことを実現するための事業、講義での演習の中で考えた案を発展させた事業、学生生活の中で感じる不便を解消したいという思いから考えた事業など、普段相談窓口で接する創業予定者とは違った学生らしいアイデアを含んだ事業計画に対して、ブラッシュアップしていくにはどうす

れば良いか検討し、助言していくことは興味深い経験となりました。

助言のポイントとしては、面白いアイデアを活かしながらも現実的な事業に落とし込んでいくために調査や検証が必要な点を指摘すること、事業計画書の読み手を意識して、文章表現をあらためたり、強調したい点はどこかを検討したりすることが要点となりました。

また、資金計画に関しては学生にとってはイメージのし難い内容であるためか、事業内容に対して小さい規模の計画になっている例がほとんどでした。

私の方からスモールスタートや複数事業で収入源を確保する考え方も1つではあることを紹介するとともに、多田専務理事からは事業として社会にインパクトを与えたいのであれば事業拡大も意識して資金計画・長期計画を描くことも大切であることを伝えました。

今回のセミナー参加者はえひめ学生起業塾の塾生を中心にご参加いただきました。令和5年度には愛媛大学社会連携推進機構の産学連携推進センターのベンチャー支援制度を利用して、えひめ起業塾の塾生をはじめとした、起業やビジネスコンテスト参加に向け事業計画を作成する学生への相談支援を行う計画もあります。

相談によって診断ポイントがつくようにし、さらにオンラインを活用しながら講義が終わった後の時間帯(18時以降)での相談も可能となるよう大学側と協議しながら制度設計を行う予定ですので、企業内診断士の方にも積極的にご参画いただければ幸いです。





松山しごと創造センター： 松山市新ビジネスチャレンジ促進補助金の集中対応

中木戸 康博

松山しごと創造センターでは、令和 5 年 9 月～11 月に『松山市新ビジネスチャレンジ促進補助金』事業計画策定支援機関として集中支援・サポートを行いました。

当該補助金の申請受付期間は令和 4 年 9 月 2 日～令和 5 年 1 月 31 日でありましたが、予算上限に達したため 11 月 30 日付で受付終了が周知されました。その間、多くの相談者が松山しごと創造センターを利用されました。

企業内診断士である私は 2、3 か月に一度、土曜日の経営相談員を担当させて頂いており、私も期間中に数件の当該補助金に係る相談をお受けしました。

個人的な印象ではありますが、相談内容は主に、①自分の思っている事業内容が申請対象となるのか確認したい、②申請を決めており計画内容のブラッシュアップや事業計画書の書き方について相談したい、の二つに分かれていたように感じました。

①については誤った助言にならない

よう、申請要領と Q&A を確認しながら進め、それらに記載の無い事項については申請の窓口へ確認してもらうよう伝えるといった機械的な対応となりましたが、②については相談者との対話から情報を整理し、読み手のことを意識した事業計画書作成を支援する、といった中小企業診断士としてやりがいを感じる仕事をさせて頂きました。



この記事を書いています令和 5 年 2 月初旬現在、愛媛県『物価高騰対策設備投資支援補助金』が公募中になっており、『ものづくり補助金』『事業再構築補助金』なども継続が決定しております。創業間もない事業者や、コロナ禍・物価高騰により厳しい経営が強られる事業者を支援する施策が円滑に活用されるよう、松山しごと創造センター相談員として引き続き丁寧な対応を心掛けたいと思います。



八幡浜商工会議所主催『経営デザインシート作成セミナー』

高野 祐介

八幡浜商工会議所様主催の「経営デザインシート作成セミナー」に関して、当協会から講師として診断士 2 名の専門家派遣が行われました。当該セミナーは、令和 4 年 10 月から令和 5 年 2 月にかけて、毎月 1 回（各回 2 時間）八幡浜商工会議所にて開催されました。

「経営デザインシート」とは、企業が将来を構想するための思考補助ツール（フレームワーク）であり、内閣府が企

業等での利用を推奨しているものです。

経済のグローバル化が進む中で「良いモノを作れば売れる」という時代は終わり、企業は多様化する顧客



のニーズやウォンツに応える「価値」を提供していくことが求められています。経営デザインシートを作成することで、

将来の経営の基幹となる価値創造メカニズムを自らデザインできるようになります。

セミナー内容は、講師から経営デザインシート作成のポイントが解説され、参加企業がワークショップにより自社オリジナルの経営デザインシートを作成するというものです。セミナー参加企業は、経営デザインシートの作成を通して、下記(A)～(D)の一連の流れを体験し、環境変化に耐え抜き持続的成長をするための経営戦略策定に取り組みました。

■経営デザインシート作成プロセス(概略)

- (A) 自社や事業の存在意義を意識した上で、
- (B) これまでの価値創造メカニズムを把握し、
- (C) 長期的視点で将来在りたい姿を構想する。
- (D) 実現に向けて今から何をすべきか戦略を策定する。

当協会では、「経営デザインシート」に限らず、各種セミナーの講師派遣を行っております。企業の多様なニーズ、ウォンツに応じることが出来ますので、お気軽にご相談ください。



入会ご挨拶

岡崎 晋也

■経歴

愛媛県出身ですが、小学高学年からは北海道で育ちました。工学部を卒業後、大手化学メーカーに就職し、製造課1年、工場管理チーム1年、プラントSE3年の計5年間勤務しました。現在は父親が創業した「ゆうぼく」という農業系の会社を引き継ぎ、代表を務めております。その傍ら愛媛大学大学院に入学し、2019年に農学研究科修士課程を修了しています。

■診断士を取得した経緯

診断士を目指したきっかけは、会社の代表として必要な知識が詰まっていたので、資格取得というよりは単純に勉強目的で「1次試験を合格する」というと



ころから始まりました。実際に試験を受けていく中で、この資格を活用すれば、自身が関わっている農業界をもっとより良く出来るかもしれない、そんな思いが生まれ始め、結局途中からは「診断士になって、儲かる農業の実現に寄与する」事が目標となりました。

■現在の仕事

普段は会社の代表として、あらゆる業務をこなしています。6次産業と呼ばれる形態の会社なので、農業生産、食品製造加工、卸・小売販売、飲食業と多岐に渡り、全体を俯瞰して見るための幅広い知識が求められます。また Nuffield 国際農業奨学生(日本では3人目)としても活動しており、世界中の農業について学び、研究している身でもあります。

最近では畜産農場への AI 技術の導入や、国産飼料率向上のための耕畜連携の仕組み構築に注力しています。

■得意分野

元々工学部出身でシステムエンジニアの経験もあるため IT や電気関係は得意です。特に前職では工場内の DB の活用を専門としていました。工場内勤務でもあったので、QC や IE の分析経験もあ

ります。現在は畜産農業系企業の代表であるため、畜産に関しては勿論の事、食品製造加工、ブランディング、販路拡大、飲食店運営等、幅広い分野に精通しております。クラウド型 DB アプリケーション「kintone」の活用事例発表大会では 2019 年に全国グランプリを獲得しています。

■今後について

会社の代表をしながらの活動になるので制約はありますが、前述した通り、農業業界の立場向上に寄与していきたいと考えております。現役の会社経営者だからこそ見える視点もあると思うので、より近い目線で、信頼されるような診断士になっていきたいと思っております。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



お 知 ら せ

■令和 5 年度 (前半) の行事予定

日 程	行 事 内 容
5 月 12 日 (金)	理事会 第 5 越智会計ビル
6 月 16 日 (金)	定時総会 東京第一ホテル松山

■スキルアップ研修予定

日 程	テ ー マ (予 定)
4 月 11 日 (火)	伴走型支援について
5 月 9 日 (火)	ポストコロナの支援策
6 月 13 日 (火)	県内漁業の状況と中小企業診断士の支援について

会場:松山市男女共同参画推進センター
会議室 3 ※テーマは変更可能性あり

編集後記

「しんあい 2023 年春号」発行にあたり、執筆にご協力いただいた皆様、発行に関わった皆様にあらためて感謝申し上げます。しんあい会報では、様々な年代や立場の会員診断士がどのような活動に取り組んでるか、今後の展望をどう考えているか、といった内容を発信すべく次号以降も様々な記事を企画して参ります。

(広報委員長 濱田 悠介)